

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104075		
法人名	サンキ・ウエルビー株式会社		
事業所名	サンキ・ウエルビー グループホーム下関		
所在地	山口県下関市生野1丁目4-10-2		
自己評価作成日	平成 26年 3月 8日	評価結果市町受理日	平成28年1月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=35
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市古敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成 26年 4月 11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サンキ・ウエルビーグループホーム下関は開設二年になりました。私たちの理念「信頼されること」「目標を持つこと」「のんびり暮らすこと」「責任を持つこと」「絆を大切にすること」は、ご利用者様・ご家族に対して、職員間で、または地域の皆様に対しての思いです。ご利用者様お一人お一人の思いを大切にしながら、ご自分らしくお過ごしただけの空間作りを目指しております。ホーム内・外における行事に力を入れ、お花見、天ぷらパーティーや、ハンバーガーランチ、地域常時への参加や、クリスマスパーティーなどの季節毎のイベントでご利用者様に喜んでいただいております。車椅子対応の方もいらっしゃいますが全員が外出行事へ参加していただけるよう支援しております。同建物内の居宅、訪問、小規模多機能事業所の職員とも合同で研修を実施し、知識の共有を図り、ケアの質の向上に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議に参加しておられる地域のメンバーから地域住民に、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催される事業所の行事(夏祭りやクリスマス会など)への参加を呼びかけてもらわれたり、事業所の消火訓練やAED講習に地域の人の参加を得られたりしている他、自治会行事のハイキングに利用者も参加されゲームを楽しまれるなど、地域のひととの交流が図れるように取り組まれています。利用者の気持ちに寄り添った支援が出来るように、職員同士がコミュニケーションをとりながら、人格の尊重と誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「福祉事業を通じ地域社会に貢献する」という会社理念を意識した上で、「信頼されること、目標を持つこと、のんびり暮らすこと、責任をもつこと、絆を大切にすること」を私たちの理念として業務を遂行している。	地域密着型の意義をふまえた法人の理念に加え、事業所独自の目標を作成して、事業所内に掲示している。職員間での理念の共有や意識づけまでには至っていない。	・理念の検討と職員間での共有
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週地域の方がオカリナ演奏に訪問してくださり定着している。季節ごとのイベントでは、運営推進会議のメンバーが参加くださったり双方向の活動ができるようになってきた	自治会に加入し、地域の人と利用者が一緒にハイキングに出かけゲームなどを楽しんでいる。併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行う夏祭りやクリスマス会に地域の人の参加を得て、利用者や家族と交流している。オカリナ演奏やフラダンスのボランティアの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	創建物内の居宅支援事業所と連携し、近隣の方対象に介護保険についての勉強会を開催している		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年の評価を踏まえ、できなかったところを実施、または実施できるように取り組んでいるところである	自己評価は職員間で話し合い、管理者がまとめている。全職員の評価の意義の理解や項目の理解が十分とはいえない。評価を活かした取り組みには至っていない。	・評価の意義や項目の理解と全職員での取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、委員の皆様に随時現状を報告し、貴重なご意見は参考にし、サービス向上に活かせるように取り組んでいる	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2ヶ月に1回開催し、現状報告、行事予定、ヒヤリハット報告などをして、意見交換をしている。メンバーから地域の人に事業所行事への参加を呼びかけてもらって交流の推進を図っている。議事録に記録された意見を十分に活かすまでには至っていない。	・会議の活かし方の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加いただいた折、委員の方々と意見交換、質問にお答えいただいている	市担当課と地域包括支援センターが交互に運営推進会議に出席し意見交換を行っている他、出向いたり電話やファックスで相談し助言を得て、協力関係を築くように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を実施し、全員が理解をしている。利用者家族に対しても、通知している。スピーチロックについては、個別に指導し、ケアの向上に取り組んでいる	内部研修で学び、全職員が身体拘束をしないケアについて理解して取り組んでいる。スピーチロックについて気づいたときは、管理者やリーダーが注意している。玄関の施錠はしていない。拘束につながる困難事例の場合は、職員や家族が話し合っ解決策を見出すように努めている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修の必修項目であり、常に意識して行動している		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で理解を深めている。外部研修の参加も適宜実施している		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事前説明、署名捺印を頂き契約、利用開始となる。ご家族の不安な点はお尋ねし、納得の上契約していただいている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、ヒヤリハット等センター会議にて周知し、再発防止に取り組んでいる。同時に会社へ報告し、上長からもアドバイスがある	苦情の受付体制や処理手続きを契約時に家族に説明している。運営推進会議の案内時に家族にアンケートを行い、面会時や電話で利用者の近況を伝えて意見を聞いている。運営に反映させるような意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談、またはミーティングにおいて意見を聞く機会を設けている	職員会議(月1回)やセンター会議(月1回)、カンファレンス(2ヶ月に1回)で意見や提案を聞く機会を設けている。食材物品発注、環境衛生、行事レクリエーションの各担当の意見を連絡ノートを活用して報告し、運営に反映させるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適時にヒヤリングによる現状把握をし、向上心を持って働けるような職場環境適正化に務めている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のスキルアップのため、研修内容に見合った職員を選定、推薦し外部研修参加を実施している。個別参加も希望により実施できる体制を作っている	外部研修は情報を伝え、勤務の一環として年1回参加の機会を提供している。受講後は法人にレポートを提出し、職員に口頭で伝え資料を閲覧できるようにしている。月1回のセンター会議の時に虐待防止、身体拘束防止、守秘義務、介護計画などについて研修している。新人は管理者やリーダーが1日指導した後、日常の業務の中で職員同士が学びあっている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、リーダーは研修を通じ同業者と交流する機会を設け、職員にも紹介している。現状把握ができ、サービス向上につなげている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際得られた情報をもとに、ご本人の要望にできるだけ応えられるよう配慮している。利用開始時期はご家族の協力も得ながら対応している		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との連絡を密にし、できることを共に考え不安解消できるよう対応している		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは当グループホームでの暮らしに馴染んでいただくための支援をし、ご本人にご家族の必要としている支援を理解し柔軟に対応できるよう努めている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設ではなく「暮らしの場」であることを理解し、自然な形で寄り添うことができるに意識を持っている(理念:信頼されること、絆をもつこと)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への連絡を密にし、時には冗談が言える関係を築いている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由にできる環境であり、外出・外泊もご家族の協力を得て実施している	家族や親族、友人、知人の来訪がある他、電話や手紙の支援をしている。家族の協力を得て自宅への外泊や法事への参加、墓参り、外食などの支援をしている。友人とカラオケに出かける支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、想いを理解・尊重した上で、他者を関われる時間を持てるよう支援している		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、関係性を大切にしている。(お見舞い、相談など)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に得られた情報を元に、思いを把握し、意向に沿えるように努めている	入居時のアセスメントで思いや意向の把握に努め、本人の日頃の言動等から察しているが、十分とはいえない。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に得られた情報を元に、ご家族・ご本人の協力を得ながら生活歴などの把握につとめている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前情報、利用開始後の様子から、一人ひとりの現状を把握・共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様毎、担当職員を決めている。担当者を中心に管理者（兼計画作成担当）、ご本人、ご家族と適時カンファレンスを実施し、計画に反映させ、実施表により達成を確認している	月1回のカンファレンスで利用者を担当する職員と計画作成担当者が話し合い、本人や家族の意向を反映させた介護計画を作成し、実施表でケアを確認している。3ヶ月に1回モニタリングを実施し、見直しをしている。	・モニタリング方法の工夫
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を記録する中で、ケアのヒントになることがらなども追記するにし、その後に活かせるようにしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	寿司の広告を眺めている利用者から「食べたいね」という声が出たので、ひな祭り行事で提供した→柔軟の対応を心がけている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事へ参加、近隣を散歩、なじみの店へ出かけられるよう支援している		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を汲み取り、かかりつけ医への定期受診の支援をしている。受診時の情報提供や相談など積極的に連携・協力している	協力医療機関や以前から利用している医療機関をかかりつけ医にしている。協力医療機関へは事業所が受診の支援している他、他科も含めて希望する医療機関へは家族の協力を得て受診の支援をしている。受診結果は家族からの情報も併せて「支援経過」に記録して共有し、緊急時や状態の変化があれば、かかりつけ医や家族と協力して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の些細な変化を捉え、看護職に相談、必要に応じてかかりつけ医・協力医に相談できる環境を作っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院・退院に際してはできるだけ付き添い、関係者との情報交換に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応を説明している。家族の意向を確認した上で、かかりつけ医と連携し対応していく	事業所でできることを契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、医療機関の意見を参考に家族と話し合い、本人の状態や家族の希望にそって職員が話し合い支援をしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット、事故報告の事例を全員で共有。再発防止に向けミーティングを実施する。応急手当は看護職による研修を実施した	事例が生じた場合は、その場にいた職員が話し合っヒヤリハット・事故報告書に記録し、職員会議で話し合っ転倒防止など、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。現任研修でAED講習や消防署の協力を得た心肺蘇生法、看護師による誤飲の研修を行っているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとは言えない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、昼夜想定避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施。防災の日、緊急連絡網連絡実施。地域住民とも消火訓練・AED講習を実施した	年2回消防署の協力を得て昼夜間を想定した避難、消火、通報訓練を行い、消火訓練やAED講習には地域住民(5名)が参加している。独自に緊急連絡網による通報訓練を行っている他、運営推進会議で協力を呼びかけているが、地域との協力体制が十分とまではいえない。	・地域との協力体制の構築にむけた更なる取り組み
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した対応を心がけているが、時として配慮にかけた言葉かけがなされてしまうことがある	法人研修で学び人格の尊重とプライバシーの確保について理解し、職員間で話し合っ、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。言葉かけなど気になるところがあればリーダーが指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位の行動ができるよう支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の気持ちを優先させ対応するよう心がけている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族とも相談しながら、その方らしさの表現のため指輪持ち込みにも応じている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	29で報告済みであるが、食べたいものに柔軟に対応。ばら散らしなどは混ぜ込みなど一緒にしている。配膳は困難でも、テーブル拭き、食器洗いなどはお願いしている	昼食と夕食は法人からの配食を利用し、朝食とご飯、汁物は事業所でつくっている。利用者はテーブル拭き、おしぼり配り、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。誕生日会の寿司や敬老会のちらし寿司づくり、おやつづくり、ハンバーガーや回転寿司を買ってきて食べたり、家族の協力を得ての外出など、利用者の希望にそった支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療関係のメニューを採用し、栄養バランスに心がけている。水分摂取量の少ない方には、好みのものを提供したり、ゼリー、補助食品で対応している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアを実施している。体調不良時は、ベッド上にて口腔スポンジを利用する。義歯消毒、歯ブラシコップ消毒、定期交換を実施している		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間帯は紙オムツを使用する方も、日中は紙パンツ使用とし、トイレでの排泄を支援している。(立位不可能者は日中もオムツ対応にて清潔保持する)	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、必要に応じて誘導して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表により、便秘者の把握をしている。軽運動の参加を呼びかけ、乳製品提供を実施、便秘薬服用に際してはかかりつけ医に適時相談して対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めているが、利用者の体調、気分を尊重し、日にち・時間の変更は柔軟に対応している。満足していただける時間を提供している	入浴は確実のごぜんちゅであるが、利用者の希望や体調に合わせて毎日入浴も可能で、歌を歌ったりゆっくりと話をするなど入浴が楽しみになるように支援している。利用者の状態に合わせてシャワー浴や足浴、清拭の支援をしている。入浴を希望しない人には声かけの工夫や時間をずらすなどの工夫をして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠を得るよう、日中の活動支援をしている。午睡などは利用者様の希望ににて自由に実施している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された定期薬、頓服薬について理解している。症状の変化はご家族、かかりつけ医に適時相談している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用時間に差はあるものの、得意なこと、好きなこと、役割をみつけ支援している。脳レクは定着しており、楽しみにしている方多い。	節分、ひな祭り、敬老会、クリスマス会などの季節の行事や誕生会、スイカ割り、シニアエクササイズ、折り紙、脳トレ、今日は何の日、カルタ取り、職員による新聞の拾い読み、本や新聞を読む、ことわざ遊び、口腔体操、ラジオ体操、オカリナ演奏、洗濯物たたみ、テーブル拭き、食器洗いなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い時期は散歩の実施をこころがけている。車椅子利用の方も外出行事に参加ができるよう計画、実施している。ホーム内外問わず行事にはご家族へも参加を呼びかけている。	初詣、地域の人とのハイキング、季節の花見(桜、紅葉)、みかん狩り、日常の散歩や食材の買い物、洋品店での買い物、家族の協力を得ての墓参りや外食、年末の外泊など、家族や地域の人と協力しながら出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は原則持ち込まないようお願いしている。必要に応じてご家族に対応していただく。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話の取次ぎをしている。誕生カードや季節の手紙などご家族、ご友人から届いている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具持ち込みは自由で制限はしていないが、共有空間は季節の飾りつけ、レクリエーションで作成して作品、写真などを飾っている。三月は雛人形を飾った	明るく広々とした居間兼食堂はアイランド型のキッチンが面し、畳コーナーがあり食卓、テレビ、ソファを配置している。壁には利用者と職員が一緒に作った貼り絵や行事の時の写真を飾り、貼り換えては利用者に喜ばれている。加湿器等を利用し、温度、湿度、換気に配慮し、清潔に保って居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	変形テーブルで個になれる位置を確保したり、ソファ、和室利用で思い思いに過ごせるよう配慮している		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人専用であるため、なじみの家具、装飾品を持ち込んでいただいている。エアコン設置により快適な温室で過ごせるように配慮している。	箆箆、机、椅子、テレビ、仏壇、神棚、ゴミ箱、洗面器、本などの日用品を持ち込み、家族の写真や造花、縫いぐるみ、折り紙の作品などを飾って、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室は分かりやすくネームプレートを付けている。文字認識の困難な方にはマスコットをつけるなど判断できるアイテムを活用している		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 サンキ・ウエルビグループホーム下関

作成日：平成 26 年 9 月 22 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	11	家族の意見、相談、苦情の発生時、納得等して頂くまでの過程が記録されていない。	利用者・家族との関係を密にし、要望・希望等を把握し信頼関係構築に努めるとともに、対応時の経過記録の徹底を図る。	面会時や連絡時、近況報告とともに要望等はないか随時確認・意見交換行い記録に残していく。さらに、家族に対しては回答を明確にする。	6ヶ月
2	27・ 28	介護計画、モニタリング等の記録が漠然としている。また、詳しく記録されているが、分かりづらい。	記録方法の工夫と内容の具体性を追求する。スタッフ全員の意見を集約し計画に反映させる。	利用者個々の月毎のテーマを決め対応する。担当職員は、モニタリングと具体的な介護計画立案の工夫を行う。さらに日々の記録の徹底に努める。	12ヶ月
3	36	災害対策、夜勤者一人での利用者全員の避難、地域との交流はあるが、近所との交流が薄い。(取れていない)	防災訓練時には、近隣の方にも呼びかけをし、参加をお願いする。	運営推進会議の席にて、防災訓練計画の確認、自治会、近隣との関係を大切にし、自治体訓練にも参加させて頂けるよう調整。	6ヶ月
4	50	利用者一人々の思い、意向に努めているが十分に対応できていない。	外出、買い物等、出かけられるよう家族、地域の人々と協力しながら本人の希望に近づきたい。	食材の買い物時等、本人の希望があれば一緒に同行。散歩日和の日には、外の空気を吸いに戸外へ出掛ける。	3ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。